

わたりだ

2024. 5. 1

渡田小学校教育目標
やる気いっぱい
笑顔いっぱい
元気いっぱい
川崎市立渡田小学校

水に慣れる

学校長 楠田 典子

3月には148名の卒業生、12名の教職員を送り出した渡田小学校ですが、4月には新しく82名の1年生、9名の教職員を迎え、全校児童751名と教職員53名で新たな年度のスタートを切りました。新年度になってから約1か月がたち、渡田小の新メンバーたち（大人も子供も）も、少し「渡田の水」に慣れてきたころでしょうか。「水」だけに、入ってすぐは少しひんやり感じる人、逆に熱すぎると感じる人もいるかもしれませんが、そこに浸かっていることで、だんだんとその水の温度に体が慣れてきて、あまり温度の違いが気にならなくなってくるという感覚と、新たな環境になじんでいくことの共通点を感じて、昔の人は「水に慣れる」と表現したのでしょうか。うまいたとえだと、改めて感じるこの季節です。



真剣に最終確認

先日4月25日に、2年生が1年生の教室に行き、用意したプレゼントを一人一人手渡しし、お互いに自己紹介し合うという生活科の学習活動がありました。昨年1年間自分が過ごした教室の前に、緊張気味の表情で整列し、出番を静かに待つ2年生たち。一方、教室の中には、これまた「何が始まるのだろう・・・？」という不安げな表情で先輩たちの動きを探る1年生。2年生が教室の中に入ると、このお互いの緊張は頂点に達しました。席に座っている1年生からは、教室の前に立って並ぶお兄さん・お姉さんたちは、さぞかし大きく見えたことでしょう。でも、あらかじめ決められた1年生の席まで2年生が出向き、自分の名刺カードと昨年育てたアサガオからとれた種を渡して言葉を交わす場面では、先輩と後輩の（！？）温かい交流の場面がたくさん見られて、見ているこちらにも思わず笑顔になってしまいました。ちなみに今年の1・2年生は、あと4年後の渡田小創立100周年記念の年に5・6年生として学校をリードする子どもたちです。これから始まる「渡田ライフ」をともに楽しんで、4年後の渡田小創立100周年を、力を合わせて大いに盛り上げてほしいものです。



もらっちゃった！！

さて、5月17日は、渡田小学校の開校記念日です。1928年（昭和3年）、職員13名、児童500名でスタートしました。当時はまだ珍しかったコンクリートで校舎が作られ、「コンクリ学校」と呼ばれたそうです。渡田小学校の歴史に思いを馳せてみるのもいいですね。



アサガオの種、大事に育ててね。



字、読める？